

「 地域を、命を、災害から守るために 」

京都府 舞鶴市立加佐中学校 3年 眞下 穂香

全国に豪雨をもたらした台風7号により、私の住む久田美地区は大きな被害を受けた。8月14日の深夜、雷と激しい雨が降り続いた。夜なのに辺りが明るくなるほどの光と、普段の雷の音とは違う「ドカーン」という、雷が落ちたであろうと思われる大きな音が何回も響いた。はじめは何とも思っていなかったが、時間がたつにつれ、雷と雨の激しさが増していき、とても怖くなった。だが、「そのうち収まるだろう。」と思って、そのまま寝た。

後で知ったことだが、14日深夜から15日未明にかけては土砂災害警戒情報や、記録的短時間大雨情報が発表されていたようだ。そして、私の住む久田美を含む加佐地区には避難指示も出ているようだ。

15日の朝に起きると、雨は昨夜ほど激しくはなく、落ち着いた様子だった。私の家の前は、被害といった被害はなかった。

しかし、その日、用があったので、車で外出しようと少し進むと、一面が茶色く、道路に大きな木が流れついていた。流れ出た土砂が川の近くの畑にたまっていた。家が浸水していたり、土砂が家の中に入っていたり、大きな木が橋に引っかかっていたりしていた。また、橋が落ちたり、落ちてはいるものの変形して車が通ることが危険な状態になったりしていた。その光景を見た時、あまりのひどさに鳥肌が立った。私が生きてきて初めての経験だった。

14日深夜からの大雨により、川の上流で土砂崩れが起き、山の奥から流れてきた多くの土砂や流木によって川がせき止められ、川が氾濫していたのだった。

私の家の前では氾濫こそしなかったが、いつも見えていた川底の景色が、土砂により見えなくなるほど、たくさんの土砂が流れてきていた。

私は、自分の住む地域がこんな被害に遭うことはまずないだろうと思っていた。由良川の流れる舞鶴市加佐地区は、水害の多い地域ではあるが、毎回「浸水するならこの場所」とおおよそ見当がつく。それに由良川には大きな堤防ができたり、浸水しやすい場所は川を拡張する工事も行われたりして、災害に備えられてきた。だから、大きな災害が起こる可能性はないだろうと思っていた。

しかし、いつもはほとんど被害を受けてこなかった久田美地域で、これまでにない大きな被害が出ていた。この災害で亡くなった人はいなかったが、もしその時、避難しようと外に出ていたら…橋が落ちるその時にちょうど橋の上にいると…と考えるととても怖い。

このような災害から命や財産を守るためにはどうしたらいいのだろう。私は、普段から災害を減らす減災の意識を持ち、命を守る意識を高めること。そして災害を他人事だと思わないことが大切だと思った。

今回の災害も、もとは全て自然現象だから完璧に防ぐことはできない。だからこそ、被害を最小限にするために、命を守るために、できることを行うことが大切だと思った。

国や行政には、土砂災害の危険区域には斜面を崩れにくくする工事や対策を進めてほしい。

個人では、例えば、増水の際には土のうを置くなどのことができる。土砂災害の場合は、ハザードマップを確認して危険なところを確認し、早めに避難したり、危険がせまったら、家の中でも、できるだけ山から離れた場所に移動したりするといったことができる。これは危険とされた場所だけではない。状況によって変化することもあるので、危険を感じることも少しでもあったり、近くの場所が危険な状態になったりした時にも行う必要がある。今回は、浸水することなんてないだろうと思っていた私の地域で大きな災害が起きていた。だから全員が「危ないかも…」「もしかしたら…」と思うことが大切だと思った。

このように災害が起きる前の対策をとること。万が一、災害が起きた時には、自分たちにできることを行っていくことが大切だということを、今回の台風7号で改めて感じた。そして、一番大切なことは他人事だと思わないことだ。

久田美地区はもともと土砂災害特別警戒区域に指定されているが、今回の災害で川に土がたまり、増水の危険性や、土砂崩れの危険性もさらに上がったと思う。私の家の前には川、裏には山がある。危険なところを確認し、できるだけ被害を防げるような取組を、できることから少しずつ行ってみたいと思う。